

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学文学部哲学専修課程学士・文学士
1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士・文学修士
1990年10月 東京大学教養学部助手（～1993年3月）
1993年4月 神戸大学文学部助教授（～2006年3月）
2006年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

哲学、特に西欧近世哲学と現代フランス哲学

b 研究課題

<内在性の哲学>の体系化の作業として次の三つが現在の研究課題である。

- 1/西洋形而上学の形成史の探求とそれを背景とした<存在の一義性>の哲学の系譜学の作業。
- 2/現代フランスにおける差異哲学の検討。
- 3/非人間主義 (inhumanisme) の哲学の展開。

c 主要業績

(1) 著書

- 共著、松永澄夫他、『叢書 哲学への誘い——新しい形を求めて I巻 哲学の立ち位置』2010.10
共著、神崎繁他、『西洋哲学史II 「知」の変貌・「信」の階梯』2011.12

(2) 書評

「中田光雄『正義、法・権利、脱・構築——現代フランス実践思想研究——』（創文社、2008年）及び『現代を哲学する 時代と意味と真理——A・バディウ、ハイデガー、ウイトゲンシュタイン——』（理想社、2008年）」（松本潤一郎氏との共著）『フランス哲学・思想研究』第15号、2010年、pp.190-194.

(3) 学会発表

「内在の途——スピノザと無限性」哲学会、(村上勝三氏との) ワーク・ショップ「超越の途と内在の途—『デカルト研究』三部作完結を機会として」、東京大学文学部、2010年10月30日。

“Philosophy of Non-Humanism reconsidered: Deleuze and *Ritornello*”, The 5th Annual Philosophical Meeting BESETO “Rationality in Human Life”, Peking, 2011年1月9日.

« Philosophie de la ritounelle. Deleuze & Guattari et pop-music », LA PHILOSOPHIE FRANCAISE CONTEMPORAINE EN ASIE, Journée d'étude internationale organisée par Hisashi Fujita et Arnaud François, Centre International d'Étude de la Philosophie Française Contemporaine (CIEPFC) et Master Erasmus Mundus EuroPhilosophie, École normale supérieure, salle Dussane, 2011年2月10日.

「ライブニッツはスピノザ哲学の何に惹かれ、何を恐れたのか？」文部省科学研究費「近現代哲学における虚軸としてのスピノザ」第2回研究会「ライブニッツとスピノザ、18世紀へ」（日本ライブニッツ協会・スピノザ協会との共催）提題、大阪大学文学部、2011年3月6日

「<ヘーゲルかスピノザか>再考——規定は否定か——」日本ヘーゲル学会第13回研究大会、シンポジウム「ヘーゲルとスピノザ」、お茶の水女子大学、2011年6月18日。

3. 主な社会活動

(1) 学会

- スピノザ協会、運営委員、2010.4～2012.3
日本哲学会、評議員、2011.5～
日仏哲学会、理事、2010.9～

(2) 非常勤講師

京都大学非常勤講師、2011.4～2012.3